

第25回 宝塚混声合唱団音楽会

J.S.BACH

Johannes-Passion

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

「ヨハネ受難曲」

BWV245 字幕付き

2013年7月27日(土)

いたみホール (伊丹市立文化会館)

開場 PM 2:30 開演 PM 3:00

後援: 宝塚市・伊丹市・宝塚市教育委員会・宝塚市文化財団・宝塚合唱連盟・兵庫県合唱連盟

ごあいさつ

本日は私たち宝塚混声合唱団の第25回音楽会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

第25回の節目になる今年、私たちは昨年第24回で演奏した「マタイ受難曲」に続き「ヨハネ受難曲」に取り組んでまいりました。

マタイとヨハネ、バッハの残した2つの偉大な受難曲を歌えることは、宝塚混声合唱団にとって素晴らしい経験とともに大きな財産となりました。

24年の長きにわたり宝塚混声合唱団をご指導いただいた大森地塩先生とは、今日が最後の演奏会になります。

時には厳しく、時にはやさしく我々をご指導いただいた大森先生の大きな愛情に団員一同感謝するとともに、新しい未来に向けて進まれる先生の為にも我々は感謝の気持ちを込めて精一杯歌いたいと思っています。

ヨハネ受難曲の演奏を通じ、皆さまにも未来に向けた明るい希望・光をお届け出来れば幸いです。

8月からは新たに畑儀文先生にご指導をいただくことになりました。

今後とも宝塚混声合唱団の活動にご理解と温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2013年7月 宝塚混声合唱団



第一部

プロローグ	1	合唱	主よ、全地でほまれ高き統治者よ！
ユダの裏切り	2 a～e	レチタティーヴォと合唱（福音史家、イエス、合唱）	
	3	コラール	おお、大いなる愛、際限なき愛
	4	レチタティーヴォ（福音史家）	
	5	コラール	主なる神よ、あなたのみ心は地上においても
大祭司カヤバの前	6	レチタティーヴォ（福音史家）	
	7	アリア（アルト）	救い主は、私を罪と言う綱から解き放つ為に、縛られ
	8	レチタティーヴォ（福音史家）	
	9	アリア（ソプラノ）	私も喜び勇んであなたのあとに続き
	10	レチタティーヴォ（福音史家、門番の女、ペトロ、下役）	
ペトロの否認	11	コラール	救い主よ、あなたをそんなに打ち、そんなひどい目にあわせたのは誰ですか
	12 a～c	レチタティーヴォと合唱（福音史家、ペトロ、下僕、合唱）	
	13	アリア（テノール）	ああ私の心よ、きみは結局どこに行きたいのか
	14	コラール	ペトロ、主の戒めを思し返しもせずに、神を知らないと言いながら

休 憩

第二部

ピラトの尋問	15	コラール	私たちを救いたもうイエスは
	16 a～e	レチタティーヴォと合唱（福音史家、イエス、ピラト、合唱）	
	17	コラール	ああ、いかなる時もおおいなる王よ！
	18 a～c	レチタティーヴォと合唱（福音史家、イエス、ピラト、合唱）	
	19	アリオソ（バス）	私の魂よ、見よ
	20	アリア（テノール）	地に染まった彼の背が悉くに天を映していることを思え！
磔刑	21 a～g	レチタティーヴォと合唱（福音史家、イエス、ピラト、合唱）	
	22	コラール	神の子よ、あなたが捕われたことによって、私たちに自由がやってきました
	23 a～g	レチタティーヴォと合唱（福音史家、ピラト、合唱）	
	24	合唱付きアリア（3部合唱とバス）	急げ、悩める魂よ ～何処へ？
	25 a～c	レチタティーヴォと合唱（福音史家、ピラト、合唱）	
	26	コラール	私の心の奥底にはあなたの御名と十字架だけがいつも閃きを放って
最期	27 a～c	レチタティーヴォと合唱（福音史家、イエス、合唱）	
	28	コラール	彼は最期のときにのぞんで
	29	レチタティーヴォ（福音史家、イエス）	
	30	アリア（アルト）	すべてが終わった
	31	レチタティーヴォ（福音史家）	
	32	アリアとコラール（バス、合唱）	私の尊い救い主よ、私に問わせてください イエスよ、死してなお限りなく生き給う
埋葬と安息	33	レチタティーヴォ（福音史家）	
	34	アリオソ（テノール）	わが心よ、自然界がこぞってイエスの受難を同じくわち合い
	35	アリア（ソプラノ）	わが心よ、いと高き者の栄光のために、碎けて涙の洪水となれ！
	36	レチタティーヴォ（福音史家）	
	37	コラール	おお神の子であるキリストよ、力をお貸してください！
	38	レチタティーヴォ（福音史家）	
	39	合唱	お休みください。聖なる死体よ
	40	コラール	ああ主よ、あなたの愛すべき御使いに命じて

（参考文献）J.S. バッハ（作曲家別名曲解説ライブラリー；12）、音楽之友社

J.S.BACH Johannes-Passion

「ヨハネ受難曲」解説

1. 作曲の背景 — ライプチヒのバッハ

神聖ローマ帝国時代にドイツ中部のチューリンゲンの町アイゼナハで1685年に生まれたヨハン・ゼバスティアン・バッハは、65年間の生涯を、ドイツ中部のいくつもの町で過ごし、教会音楽家として数多くの作品を生み出しました。

30代の大半をケーテンで過ごしたバッハは、妻マリア・バルバラの死を乗り越え、アンナ・マグダレーナと再婚し大変幸せな時を過ごしました。しかし、ケーテン侯レオポルトの音楽嫌いの妃との結婚を契機にバッハは居心地が悪くなり、ケーテンを去る決心をしました。

丁度その時ライプチヒで、クーナウの死去による後任カンツールが募集されており、バッハがこれに応募しました。ライプチヒ市参事会は、テレマンほか著名音楽家に断られたために、「最良の人物が得られないのなら、中ぐらいの人物で我慢しなければなるまい」ということで、1723年にバッハの採用を決定しました。しかし、この決定が、教会音楽の最高傑作の数々を生み出し、ドイツの教会音楽を世界レベルに引き上げる結果に繋がりました。

ライプチヒでのバッハの職務は、聖トーマス教会カンツール兼ライプチヒ市音楽監督でしたが、トーマス学校音楽教師の仕事の他に、生徒の寄宿舎の舎監、トーマス教会とニコライ教会の主日礼拝のためのカンタータの作曲とその他市内の教会の礼拝音楽の世話、さらに市の公式行事の音楽、市民の冠婚葬祭の音楽等々まことに煩忙なものでした。

バッハの教会音楽は、現存するものだけで、約200曲のカンタータ、2曲の受難曲、そのほかにオラトリオ、マニフィカト、ミサ曲等々すべての人類の宝ともいふべき名作が残されています。ヨハネ受難曲を始め、宗教曲の名曲の数々が、このライプチヒ時代に作曲されました。

2. ヨハネ受難曲について

(1) 作曲

ヨハネ受難曲は、バッハがカンツールに着任して初めて迎える聖金曜日にあたる1724年4月7日にライプチヒ・ニコライ教会で初演されました。バッハは当時39歳でした。バッハは受難曲を5曲残したといわれますが、今日に完全な形で伝えられるバッハの受難曲は、ヨハネ受難曲とマタイ受難曲の2曲しかありません。敬虔なプロテスタント教徒である上に、ワイマール時代の1717年に、ワイマール公より楽師長辞任主張の罪により禁固処分を受けて1か月余り収監されたバッハは、自らが受難を体験しています。それ故か、ライプチヒ時代以前から受難曲を作曲していた可能性が強いといわれています。

ヨハネ受難曲は、初演の後、少なくとも1725年、1732年、1749年の3回を改訂して再演されています。現在の演奏は、本日の演奏も含め1749年稿で行われることが一般的です。

(2) 曲の構成

受難曲は、イエス・キリストの捕縛から十字架にかけられるまでを、聖書の記述を用いて描いたオラトリオです。ヨハネ受難曲は、ヨハネ福音書の第18～19章を骨子として、自由詩によるアリアとレチタティーヴォ、さらに種々のコラールで構成されています。ヨハネ受難曲の台本は誰の手によるものか判明していません。

なお、2箇所に限ってマタイ福音書の劇的な描写が挿入されています。1つ目は第一部の終末、ペトロが3度イエスを否んだ直後に、過ちを悟ったペトロが慟哭する場面を描写したマタイ福音書第26章75節です。2つ目はイエスの絶命直後に起きた天変地異を描写したマタイ福音書第27章51～52節です。

構成される曲の数は、新バッハ全集に基づく40曲から

なり、場面は第一部14曲（ユダの裏切りからペトロの否認まで）、第二部26曲（ピラトの尋問から埋葬と安息まで）、の二部構成となります。

（3）ソリストの役割

聖書の部分は、地の文を福音史家（エヴァンゲリスト）役のテノールがレチタティーヴォで朗読していきます。登場人物のうち、個人の台詞はソリストに委ねられ、特にバスが担当するイエスの福音は、マタイ同様に弦楽器伴奏をともなうレチタティーヴォ・アコンパニヤートで区分されます。ソリストが担当する脇役の人物は、ペトロ（バス）、ピラト（バス）、ペトロを見咎めた門番の女（ソプラノ）、下役、下僕（テノール）です。

（4）合唱の役割と特徴

聖句以外のテキストによる合唱、コラール、そして群衆としての合唱が多く挿入されています。合唱の曲は時には安らかさ、時には激しさを示します。ヨハネ受難曲の特徴として、ここで①合唱の比重が高いこと、②曲の配列がシンメトリー（対称）になっていること、の2つを次に記します。

① 合唱の比重が高いこと

ヨハネ受難曲全40曲を構成要素数で表すと、レチタティーヴォ 17曲（第一部6、第二部11）、自由詩のアリアとアリオーソ10曲（第一部3、第二部7）、コラール11曲（第一部4、第二部7）、合唱2曲（第一部1、第二部1）となります。ヨハネ受難曲に欠かせないのがコラールといえます。又、イエスを捕える兵士たち、イエスの死刑を要求する群衆などの台詞は合唱により歌われるため、ソリストが多数登場するマタイ受難曲に比べて、合唱の比重が高くなっているようです。

② 曲の配置がシンメトリー（対称）になっていること

ヨハネ受難曲では曲の配置・構造はシンメトリーになっていて、コラールがシンメトリー構造の中心軸に据えられています。群衆合唱自体が素晴らしいだけでなく、合唱が作品の構成部分の相互の関連付けで決定的な役割を演ずるように取り図られています。第22曲のコラールを中心とする、第17曲コラールから第26曲コラールに至るシンメトリックに作曲された部分は次の通りです。（曲の次の△▲☆★の記号は主題素材を表し、同じ記号は同じ主題素材を示します。）なお、下記以外にも、音型の回帰でシンメトリックになっている箇所もあります。

第18b曲△ その人でなく、バラバを！

第21b曲▲ ユダヤ人の王、ばんざい！

第21d曲☆ 十字架につけよ。

第21f曲★ 私たちには律法があります

第22曲（コラール）神の子よ、あなたが捕われたことによって…

第23b曲★ もしこの人を許したなら。

第23d曲☆ 殺せ、殺せ。

第23f曲△ 私たちには、カイザル以外に王はありません。

第25b曲▲ 「ユダヤ人の王」と書かずに。

（5）物語

ヨハネ受難曲は、イエスは弟子たちと最後の晚餐（木曜日の夜）を行なった後のユダの裏切りの箇所から物語が始まります。

<プロローグ>第1曲

「主よ、主よ、主よ」との3回呼びかけから始まる、受難の話を示す冒頭合唱。

<ユダの裏切り>第2曲～第5曲

イエスを裏切ったユダに率いられた群衆のイエス探しと捕縛。イエスは自身の身に起こることを何もかも知っていた。シモン・ペトロが剣を持って、大祭司の手下に切りかかっていったが、イエスはそれを諫めた。

<大祭司カヤバの前>第6曲～第11曲

イエスは捕えられ、まずはアンナス（大祭司カヤバの舅）のところに連れて行かれた。（木曜日の夜10時頃。まずはユダヤ教による宗教裁判を受けた。）ペトロともう1人の弟子がイエスに従った。アンナスはイエスを縛ったまま、大祭司カヤバのもとに送った。

<ペトロの否認>第12曲～第14曲

人々がペトロに「お前はあの男の弟子の1人か？」と聞かれて、ペトロは違うと応える。ペトロが3度否定した直後に鶏が鳴き、ペトロは、「鶏が鳴く前に3度あなたは私を知らないという」とイエスが預言したのを思い起こし、外に出て激しく泣いた。

＜ピラトの尋問＞第15曲～第22曲

大祭司カヤバのところで無理やり有罪にされたイエスは、次にローマ総督ピラトの前に連行された。（金曜日の明け方。当時ユダヤ地方はローマ帝国の属国で、死刑の執行権はローマ総督が握っていた。）ここで、ピラトと群衆、ピラトとイエスの長いやりとりが続く。

ピラトはイエスの中に政治的な思惑がないことを悟った。ピラトは、ユダヤ人たちの前に出て、何の罪も見いだせないというが、宗教指導者に扇動された群衆は、過ぎ越し祭の囚人赦免についてもバラバを釈放しイエスの死刑を求め、イエスへの嘲弄と磔刑を求める群衆の興奮が続く。

＜磔刑＞第23曲～第28曲

宗教指導者たちは既に群衆を説得しており、ピラトはイエスの釈放を諦めざるをえなかった。ピラトは十字架につけるため、イエスを引渡し、イエスは自ら十字架を背負い、「どくろの地」という意味のゴルゴダの丘で十字架刑に処されることになった。イエスの罪状書には「ユダヤ人の王 ナザレのイエス」と書かれていた。イエスの十字架の側には、イエスの衣服を分け合うローマ兵士、それとは対照的に敬虔な婦人達があった。イエスは愛弟子に母を託した。

＜最期＞第29曲～第37曲

酸っぱい葡萄酒を浸した海綿を槍の先につけてイエスの口元に差し出され、それを受けたイエスは「すべてが終わった！」と言って、頭を垂れて息をひきとった。十字架刑が終わった瞬間（金曜日の午後3時頃）、神殿の幕が上から下へちょうど真ん中から2つに裂け、地震が起こり、岩が裂けた。

処刑後、（金曜日の午後6時から日付が変わり安息日になるので）死体を十字架にさらしておくわけにはいかないため、足を折って取り降ろすことを急いだ。イエスが既に死んでいたのも、兵士たちは足を折ることはしなかった。

＜埋葬と安息＞第38曲～第40曲

イエスの弟子のヨセフが、ピラトにイエスの遺体の受渡を願い出て了承され、イエスの遺体を引き取り、新しい墓に埋葬した。

第39曲の合唱で安らかに憩い給へと平安を歌いあげ、そして終曲（第40曲）の壮麗なフィナーレ・コラール

で物語は終わる。

3. ヨハネ受難曲の再演

ヨハネ受難曲は前述の通り、1724年の初演の後3回改訂されており、バッハの生前に何回も再演されています。バッハの死後、立派な息子たちと数多くの弟子たちにより、バッハの芸術は受け継がれていきました。しかし、受難曲に関しては、マタイ受難曲の再評価は、1829年にメンデルスゾーン（1809～1847年）による再演まで待たねばなりません。ヨハネ受難曲については、メンデルスゾーンは関心を示さず、1833年に他の人により再演されました。このヨハネ受難曲に強い関心を示したのは、メンデルスゾーンの友人であるシューマン（1810～1856年）でした。彼は、スコア分析、合唱パートの演奏会などを長年続け、1851年にデュッセルドルフでの彼の初プログラムとして、ヨハネ受難曲全曲を再演しました。リハーサルには、いつも妻のクララが立ちあっていました。なお、シューマンは、バッハ没後100年にあたる1850年の「バッハ協会」の設立で大きな貢献をしています。

それから一世紀半以上過ぎた現在、バッハの音楽はあらゆる民族に受け入れられた人類共通の財産として愛されています。バッハの2つの受難曲も、ドイツから遥か遠くの極東の国日本でも盛んに演奏されるようになりました。

宝塚混声合唱団では、昨年度のマタイ受難曲に続き、今年度ヨハネ受難曲に取り組みました。マタイ受難曲に引き続きヨハネ受難曲が歌えること、そして長年にわたりご指導頂いた大森先生との集大成となる今年のステージがヨハネ受難曲であることは、私たちにとって大きな喜びであります。

参考文献： Wikipedia、作曲家別名曲解説ライブラリー 12 J.S. バッハ（音楽之友社）、バッハ（樋口隆一／新潮文庫）、早わかり新約聖書（生田哲／日本実業出版社） 他

Bass 大隅 仁



【ヴェヒマール・バッハ先祖の家】

ヨハン・ゼバスティアンの4世代前のファイト・バッハが1555年にハンガリーから宗教上の理由でヴェヒマールに移住し、粉挽き所とパン屋経営を始めた家。バッハ一族の原点がここにある。



【アイゼナハ・バッハハウス】

ヨハン・ゼバスティアンの父のヨハン・アンブロジウスが1674年に購入して住んでいた為、以前はバッハの生家との説があったが、本当の生家ではないらしい。バッハ一族の資料や古楽器などの展示が充実している。



【アイゼナハ・バッハハウス前のバッハ】

アイゼナハのバッハハウス前のバッハ像。ヨハン・ゼバスティアン・バッハはチューリングェンの森の北西部に位置するアイゼナハで1685年に生まれた。バッハは10歳までこの地で過ごした。



【リューネブルク・バッハ広場】

15歳の時、北ドイツのハンザ都市リューネブルクの聖ミカエル教会の合唱隊員として採用されたヨハン・ゼバスティアンは、17歳までこの地で過ごした。リューネブルクだけでなく、ドイツ国内のバッハゆかりの地には、バッハ広場やバッハ通りがある。



【アイゼナハ・聖ゲオルク教会】

市の中心地にあるこの教会で、1521年にルターは説教をし、1685年にバッハは幼児洗礼を受けた。近くには、ルターが新約聖書をドイツ語に訳したことで有名なヴァルトブルク城がある。



【ミュールハウゼン・聖ブラジウス教会】

1707年にバッハは、帝国自由都市ミュールハウゼンの教会のオルガニストに採用され、この地で20代前半の2年間を過ごした。大森先生指揮での宝塚混声の初めてのバッハ演奏である「カンタータ第106番」は、この時代の代表作である。



【アルンシュタット・バッハ教会】

1703年に弱冠18歳のバッハは、アイゼナハから東に約60kmに位置するアルンシュタットの新教会（現バッハ教会）のオルガニストに採用され、音楽家としてのキャリアをスタートした。





【ケーテンのバッハ】

ケーテン城に近い広場前にあるバッハの胸像。後方の建物はバッハが家族で住んでいた場所といわれている。バッハは30代の大半をこの地で過ごし、ブランデンブルク協奏曲などの作品を生み出した。



【ライプチヒのバッハ】

トーマス教会前に立つバッハ像で、一番有名なもの。バッハは38歳からライプチヒに移り住み65歳にこの地で生涯を終えた。

BACH 写真館 大隅 仁

ベース大隅氏は、長年のドイツ駐在期間にバッハのあれこれを、音楽を愛する日本人の、そして生活者の視点から切り撮ってくださいました。宝塚混声合唱団草創期の1980年代を知る数少ない団員の一人です。帰国が大森先生のヨハネに間に合ったこと、幸運を感じます。バッハ大隅写真館でしばしおくらそぐください。(音楽会運営部)



【ライプチヒ・トーマス教会】

バッハゆかりの場所で、「マタイ受難曲」はここで初演された。バッハの墓も教会内にある。又、トーマス教会少年合唱団の活動拠点としても有名。教会の真向かいにはバッハ博物館がある。



【ライプチヒ・ニコライ教会】

「ヨハネ受難曲」は1724年にここで初演された。東ドイツ時代には毎週月曜日に「平和の祈り」が開かれ、1989年の東ドイツ平和革命の口火が切られた「東西ドイツ統一の出発点」でもある。



【バッハトルテ】

アイゼナハ・バッハハウス内のカフェのケーキ。バッハは美味しい。

【ヴォルフスブルク・バッハ通り】

ヴォルフスブルクはフォルクスワーゲン本社工場のある街。筆者が5年間駐在していた同市内の比較的新しい住宅地域にも、バッハ他ドイツの著名作曲家の名のついた通りがある。下に写っているのはゴミ箱。同地のサッカーチームで活躍中の長谷部選手もここでゴミを捨てているか？



【バッハのパイプ人形】

ライプチヒ・トーマス教会真向いにあるバッハ博物館のショップで見つけたパイプ人形。パイプ人形はドイツのクリスマス雑貨で、お腹の中でお香を焚いて、香りを楽しむ人形。

大森地塩先生と宝塚混声合唱団 年譜 (1991～2013)

1984年からのドレスデン国立歌劇場でのソリストとしての活動を終えられ、日本でのオペラプロジェクトや大学での声楽指導などを開始された大森地塩先生に、1989年9月以来、私たち宝塚混声合唱団は、幸運なことに四半世紀にわたってご指導いただくことができました。現在370号を数える月刊国内誌Purple Echo、85号(1989年9月号)の練習日誌に「・・・『共に築きあげていきましょう』とおっしゃる先生に巡り合うことができました・・・」と、団員が期待を綴っています。以来24年、私たちが主催した音楽会に絞って大森先生が指揮された曲目を、感謝をこめて紹介します。

	(曲 目)	(共演・伴奏)
1991年 3月	バッハ「カンタータ106番」	オルガン、古楽器
	三木稔「望月の駒」	ピアノ
1993年 2月	コダーイ「ミサ・プレヴィス」	パイプ・オルガン
	三木稔「つつじの乙女」	ピアノ
1994年 5月	メンデルスゾーン「六つの格言」／大中恩「回転木馬」	ピアノ
1995年 8月	ロッシーニ「小荘厳ミサ」	ピアノとハルモニウム
1996年 10月	メンデルスゾーン「詩篇42」／ロジェー・ワーグナー合唱曲集より	ピアノ
	三木稔「レクイエム」	ピアノ
1997年 6月	ブラームス「ドイツ・レクイエム」	ピアノ
1998年 5月	バッハ「ロ短調ミサ」	大阪シンフォニカー
1999年 3月	日本民謡集／黒人霊歌集／	ア・カペラ
	メンデルスゾーン「テ・デウム」	ピアノとチェロ
1999年 5月	ドイツ演奏旅行 : ドレスデン郊外カーメンツとライブチヒの教会にて、	の3曲を演奏
	日本民謡集／黒人霊歌集／メンデルスゾーン「テ・デウム」(オルガン伴奏)	ピアノ
2000年 7月	ブラームス「愛の歌」／大中恩「島よ」	ア・カペラ
	モンテヴェルディ「マドリガル」	ピアノ
2001年 7月	リスト「十字架の道」	ピアノ
	モンテヴェルディ「マドリガル」	ア・カペラ
	別宮貞雄「木と鳥のエピグラム」／ブラームス「新・愛の歌」	ピアノ
2002年 7月	バッハ「主をたたえよ、すべての異教徒よ」	Mozart 2002 Solisten
	ブラームス「おお救い主よ、天をひらけ」	Mozart 2002 Solisten
	モーツァルト「ヴェスペレ(荘厳晩課)」	Mozart 2002 Solisten
	ブルックナー「グラドゥアーレ」	ピアノ
	木下牧子「方舟」	オルガン
2003年 8月	バーバー「アニユス・デイ」	大阪シンフォニカー
	ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」	ピアノ
2004年 7月	尾形敏幸「風に寄せて」	ア・カペラ
	ティベット「五つの黒人霊歌」	Ensemble Takarazuka 04
	ラター「レクイエム」	ア・カペラ
2005年 4月	信長真富「ノスタルジア」より／千原英喜「どちなぎりしたん」	ア・カペラ
	シュツ「宗教的合唱曲集」1648より	ア・カペラ
	オルソン「テ・デウム」	Ensemble Takarazuka 05
2006年 8月	メンデルスゾーン「エリヤ」	大阪シンフォニカー
2007年 7月	ヘンデル「ディクシット・ドミヌス」／バッハ「カンタータ21番」	アンサンブル・ムジカ・アニマ
	ヘンデル「デッティンゲル・テ・デウム」	アンサンブル・ムジカ・アニマ
2008年 7月	ヘンデル「エジプトのイスラエル人」	アンサンブル・ムジカ・アニマ
2009年 7月	松下耕 混声合唱とピアノのための「信じる」	ピアノ
	ラインベルガー「レクイエム」	ピアノとコントラバス
	ブラームス「四重唱」作品92	ピアノ
	ロバート・レイ「ゴスペル・ミサ」	ピアノ、ドラムとコントラバス

今年、宝塚混声は4つのまったく違う分野の曲に、いつも練習を支えてくださるピアニスト3人※と共に挑戦します。これらには、宝塚混声が歌ったことのないタイプの曲が含まれています。私たちは、踏み入れたことのない地に挑む冒険者の気持ちです。勿論、不安だらけですが期待と楽しみがあります。

指揮者 大森地塩は言います。私の仕事は、宝塚混声合唱団の可能性を探ること。そしてそこから生まれた新たな表現に喜び、楽しさを感じたい!!個人は、自分で、自らの可能性を否定する必要はどこにもない。出来ないことを、繰り返しの練習で克服しようとする努力は、大きな喜びへ繋がると・・・。

(2009年第21回音楽会チラシより再録 ※ピアニスト：山本京子、村田朋子、田中一花)

2010年 7月	メンデルスゾーン「パウロ」	アンサンブル・ムジカ・アニマ
2011年 7月	アルヴォ・ペルト「テ・デウム」／「ベルリン・ミサ」	アンサンブル・ムジカ・アニマ
	ドブログス「レクイエム」	アンサンブル・ムジカ・アニマ
2012年 7月	バッハ「マタイ受難曲」	アンサンブル・ムジカ・アニマ
2013年 7月	バッハ「ヨハネ受難曲」	アンサンブル・ムジカ・アニマ

※ アンサンブル・ムジカ・アニマ (主宰：上塚憲一氏)：弦楽器・管楽器・鍵盤楽器等の演奏家の方々により編成され、長年にわたり、私たちのために共演してくださっています。

※ 会場：宝塚ベガ・ホール、いずみホール、ザ・カレッジ・オペラハウス、いたみホール

(編集：電子部、音楽会運営部)

団員募集

次回予定曲 ヨーゼフ・ハイドン オラトリオ「四季」 Hob.XXI-3 一緒に歌いましょう!

練習日：毎週土曜日・練習会場：宝塚中央公民館 お問い合わせ：宝塚混声合唱団 海老本 0797-71-7569

<http://takarazukakonseisakura.ne.jp/>

表紙写真：ティルマン・リーメンシュナイダー作「本を持ったヨハネ」写真提供：Erich Lessing / PPS

デザイン：Grasslands